

epwing2tsv 支援ソフト

SII の電子辞書の自作辞書対応機種 (SR-S9000,SR-S8100,SL-990X) でユーザ辞書を作る時の補助的なソフトです。(フリーソフトです)
最新版は [epwing2tsv 支援ソフトのページ](#) から入手できます。

1. 機能

satier さんが作成された epwing→tsv の変換スクリプト epwing2tsv をGUIから実行できるようにしたものです。epwing2tsv の情報については以下のページをご覧ください。

[epwing2tsv](#)

[SII 辞書クリまとめ Wiki](#)

[【辞書自作】SR-S9000 SL900X【SII 電子辞書】](#)

2. ダウンロード

(注)この文書が「ヘルプ」の場合ダウンロードする必要はありません。

Ver.0.8.0.xxx

[インストーラ版](#) 約1.5Mバイト

[Zip版](#) 約1.3Mバイト

3. 動作

1. epwing2tsv スクリプトの動作に必要な情報をGUIで設定。
2. 設定情報を元に実行用のバッチファイルを出力して実行します。

4. 動作環境

WindowsXP SP2、PC モニタ解像度 1280x1024、SR-S9000 で動作確認。
こちらでは上記以外での動作確認はできないのでご了承ください。

5. 謝辞

epwing2tsv クリプト作者の satier さんにはスクリプトの exe 化、仕様変更、exe ファイルの同梱許可など、ご協力をいただき感謝いたします。

[SII 辞書クリまとめ Wiki](#) のページも丁寧な説明で大変分かり易く管理者さんに感謝いたします。

m(__)m

6. 使い方

このソフトで使用する辞書データが必要です。辞書データの抽出方法などは上記のリンクを参照してください。

1. 変換したいデータ(00.txt,91.txt など)、フォルダをドラッグ & ドロップする。
ドラッグ & ドロップする場所はどこでも同じです(出力ファイル名部分を除く)
2. 「変換対象テキストファイル」をドロップダウンリストから選択。
辞書ファイルが自動でリストアップされるので不要なものは空白にしてください。
リストの途中が空白でも大丈夫です。(数字2桁.txt のファイルが対象です)

変換対象テキストファイル	
01.txt	[ID=00:本文]
05.txt	[ID=05:前方一致表記形見出し]
91.txt	[ID=91:前方一致表記形INDEX]

3. 「実行」ボタンを押す。



4. コマンドプロンプト画面で「続行するには何かキーを押してください」と出たら変換終了です。

```
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
*** 処理フォルダ: "F:\work\we2t-proj\we2t\dic"
*** 出力: "出力.txt"
*** 入力: 01.txt 05.txt 91.txt
*** hiraka あり

*** epwing2tsvを実行中
processing file 0x00... done.
processing file 0x05... done.
processing file 0x91... done.
writing to file: output.txtcomplete.

*** hirakaを実行中

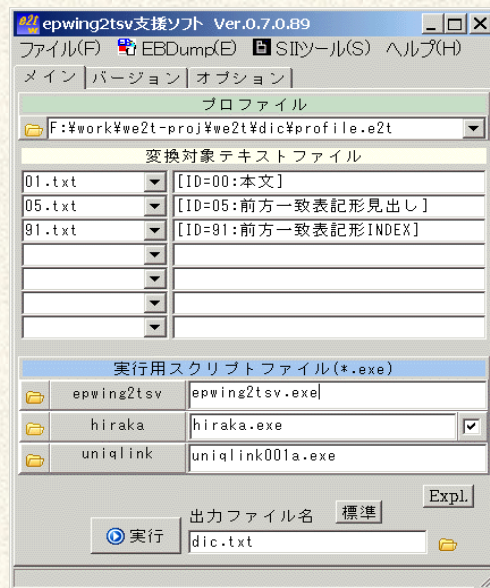
*** unqlinkを実行中

*** 終了

続行するには何かキーを押してください . . .
```

5. 上図の場合「出力.txt」が変換されたファイルになります。
このファイルをSIIの「ユーザ辞書クリエータ」にドラッグ & ドロップしてユーザ辞書を作成します。デフォルトで出力ファイル名はフォルダ名が設定されます。
(「出力ファイル名の設定」を参照してください)

7. 外観



8. 詳細動作

8.1. インストール

8.2. インストーラ版

インストールファイルを実行して指示に従ってください。
基本的にすべて「次へ」を選択してください。(^^;
デスクトップに「e2tw」



というショートカットが作成されますので実行してください。
インストール直後は自動で起動します。

8.2.1. ZIP 版

ZIP ファイルを適当なフォルダに解凍して「we2t.exe」を実行してください。

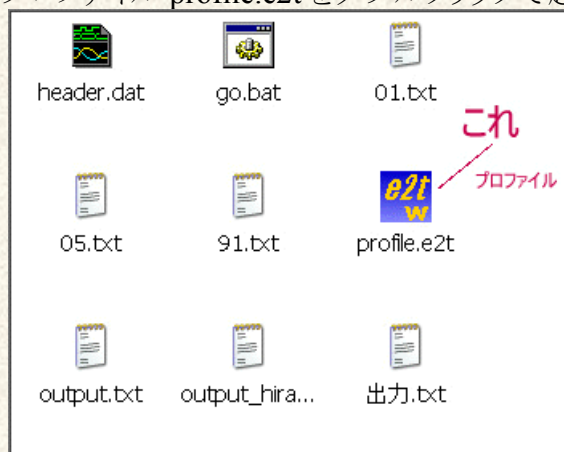
8.3. 起動方法

8.3.1. デスクトップのアイコンから起動

1. ダブルクリックで起動
2. アイコンにフォルダや辞書テキストをドラッグ & ドロップで起動

8.3.2. 関連づけで起動

辞書データフォルダにあるプロファイル profile.e2t をダブルクリックで起動します。

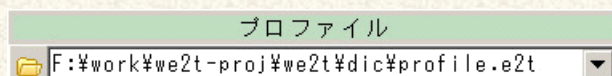


8.4. プロファイルの切替え

フォルダや辞書データ (*.TXT) をドラッグ & ドロップすると「プロファイル」(profile.e2t) を辞書データのあるフォルダに生成します。

このファイルは設定情報を保持しています。フォルダや辞書データ (*.TXT) をドラッグ & ドロップした時に profile.e2t があればその内容にしたがって画面が設定されます。

以前使用したプロファイルをドロップダウンリストから選択して作業対象フォルダを切替えることができます。

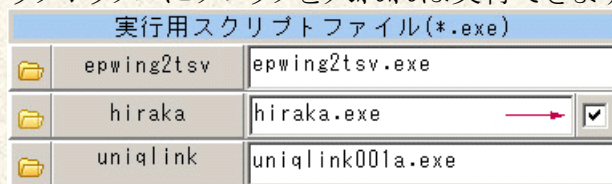


プロファイル名は変更しないでください。

8.5. hiraka の使用

hiraka を使用するには別途 MeCab というソフトがインストールされている必要があります。MeCab がシステムにないと hiraka は使用できません。

MeCab が有る場合はチェックボックスにチェックを入れれば実行できます。



[MeCab のページ](#)

8.6. メニュー/タブ

8.6.1. EBDump

「EBDump」がインストールされていれば実行できます。

8.6.2. SII ツール

「SII ツール」メニューには SII のユーザ辞書作成ツール「Udictcre.exe」を指定すれば起動できます。デスクトップに「Udictcre.exe」のショートカットがあれば自動登録されます。メニューアイコンは次回起動時から反映されます。

8.6.3. オプション・タブ

1. SII ツールを再設定します。

- 他の実行ファイルも登録できます がタイトルは変更できません

2. epwing2tsv スクリプト群を初期状態(インストールフォルダにあるもの)に戻します。

3. プロファイルの拡張子「.e2t」による関連づけを有効にします。

- デフォルトでオン。通常はこのままでよいと思います。

4. ファイル名が数字2桁のテキストファイルのみ表示します。

- 拡張子が「.txt」のものだけ表示します。

5. 標準の出力ファイル名を設定します。

- 「標準」ボタンを押すと出力ファイル名として設定されます。

6. 一時ファイル(\$_*)をソフト終了時に消去する。

- ファイル名の先頭が「\$_」で始まるファイルを一時ファイルとみなしすべて消去します。
- 消去タイミングはソフト終了時です。終了時は処理中のコマンドラインウインドウがないことを確認してください。プロファイルをいろいろ切替えた場合、ソフト終了時のフォルダの一時ファイルだけを消去します。(消去されないフォルダもあり得ます)

8.6.4. バージョン・タブ

現在使用している epwin2tsv スクリプトファイルの作成日付を表示します。

8.6.5. ヘルプ・メニュー

この文書自身を表示します。

他の項目はそれぞれの Web ページを開きますがうまく開けないかもしれません(^_^;

インストールフォルダの「URL.ini」を編集すればWebページの項目名、飛び先などを変更できます。

8.7. epwin2tsv のバージョンアップ

新しいバージョンの epwin2tsv のスクリプトファイルが発表された場合それらのファイルをドラッグ & ドロップすれば登録され使用可能になります。

変更が受け付けられると対応するパネルの色がランダムに変わります。

(次回起動時に通常の色に戻ります。ファイルオープンボタンから変更した時も同様です。)

どのフォルダの epwin2tsv スクリプトファイルが使用されているかはメイン・タブの「実行用スクリプトファイル」のエディットボックスにマウスカーソルを当てるとヒント(ツールチップ)で表示されます(黄色い文字)。

バージョンタブでファイルの日付を確認できます。

またオプション・タブで初期状態のスクリプトファイルに戻すこともできます。

8.8. 変換実行動作

「実行ボタン」が押されたら設定情報を基に「go.bat」というバッチファイルを出力して実行します。

この「go.bat」をダブルクリックしても変換処理ができます。

実行後に作業ファイルとして

\$_output.txt (一時的に output.txt が生成されますがこのファイルにリネームされます)

\$_output_hiraka.txt

などのファイルが生成されます。実行終了後であればこれらのファイルは消しても問題ないです。

オプション設定でソフト終了時に自動消去することもできます。

8.8.1. 多重実行

このソフト自身の二重起動はできませんが時間のかかる変換処理を実行させたあとプロファイルを切替えて他のフォルダの変換処理を実行させることは可能です。(同じフォルダを多重実行させないでください。)

8.9. レジストリ

インストーラ版はアンインストール情報と関連づけ情報をレジストリに書き込んでいます。アンインストールすれば消去されます。

ZIP 版は関連づけ情報だけをレジストリに書き込みます。

8.10. アンインストール

スタートメニューから「プログラム」-「epwing2tsv 支援ソフト」-「we2t のアンインストール」を実行します。

ZIP 版はオプション・タブの「プロファイルの関連づけを有効にする」のチェックをはずしたあとフォルダごと削除してください。この操作をすることで「関連づけ」のレジストリ情報を消去します。

8.11. その他

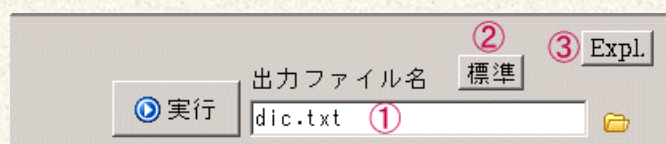
8.11.1. バッチファイル生成

実行ファイル「go.bat」は設定情報とインストールフォルダにある「bat-base.src」が結合されたものです。

go.bat = 「設定情報」 + bat-base.src

bat-base.src を変更すれば若干の処理変更に対応可能と思います。

8.11.2. 出力ファイル名の設定



出力ファイル名は辞書データがあるフォルダ名をとって自動設定されますが以下の方法で変更可能です。

①の部分にファイルやフォルダをドラッグ&ドロップ(D&D)するとそのファイルのファイル名を取り込みます。(スペースは半角アンダースコアに置換されます)

②のボタンを押すとオプションで設定したファイル名が取り込まれます。

直接入力やフォルダアイコンから設定することもできます。

ファイル名にはスペースなどを含まないようにしてください。

8.11.3. エクスプローラの起動

上の図で③のボタンを押すと辞書データのあるフォルダをエクスプローラで開きます。

8.11.4. ネットワークフォルダ

ネットワーク越しのデータフォルダ、例えば「\\共有\辞書データ」というようなUNC記述のフォルダは処理できません。

ネットワークフォルダはWindowsのドライブ名を割り当てれば処理できます。

9. 変更履歴

9.1. Ver.0.7.0.xxx 2008/11/M

初版リリース

9.2. Ver.0.8.0.xxx 2008/11/M

- HELPの誤記を修正
- 新規辞書フォルダ(プロファイルのないフォルダ)をドロップしたときに自動でファイル内容を表示するように変更。

10. 著作の明示

epwing2tsv の関連スクリプトは satier さんが著作権を有します。

上記以外の WindowsGUI 関連部分は kuma が著作権を有します。

EBDumpは http://www31.ocn.ne.jp/~h_ishida/で配布されているソフトです。

UdictcreはSIIが配布しているユーザー辞書作成ソフトです。

11. 免責

一般的なフリーソフトと同内容の免責をお願いします。(^_^;

目次

1. 機能.....	1
2.ダウンロード.....	1
3. 動作.....	1
4. 動作環境.....	1
5. 謝辞.....	1
6. 使い方.....	2
7.外観.....	3
8.詳細動作.....	3
8.1.インストール.....	3
8.2. インストーラ版.....	3
8.2.1. ZIP 版.....	3
8.3. 起動方法.....	3
8.3.1. デスクトップのアイコンから起動.....	3
8.3.2. 関連づけで起動.....	4
8.4. プロファイルの切替え.....	4
8.5. hiraka の使用.....	4
8.6. メニュー/タブ.....	5
8.6.1. EBDump.....	5
8.6.2. SII ツール.....	5
8.6.3. オプション・タブ.....	5
8.6.4. バージョン・タブ.....	5
8.6.5. ヘルプ・メニュー.....	5
8.7. epwin2tsv のバージョンアップ.....	6
8.8. 変換実行動作.....	6
8.8.1. 多重実行.....	6
8.9. レジストリ.....	6
8.10. アンインストール.....	6
8.11. その他.....	7
8.11.1. バッチファイル生成.....	7
8.11.2. 出力ファイル名の設定.....	7
8.11.3. エクスプローラの起動.....	7
8.11.4. ネットワークフォルダ.....	7
9.変更履歴.....	8
9.1.Ver.0.7.0.xxx 2008/11/M.....	8
9.2.Ver.0.8.0.xxx 2008/11/M.....	8
10.著作の明示.....	8
11.免責.....	8